

学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

令和2年度

生徒指導部

<p>1 集計結果の分析・考察</p> <p>すべての質問項目で◎であった。C、Dと答えたのは各項目平均2～4人。 Dがついた項目は2つ。(いずれも1人) C、Dの延べ人数は29人で昨年度より－8人。</p> <p>「8 生徒が部活動と学業の両立ができるように指導・助言をおこなっている」 Aが最も少なく、なおかつC＋Dの人数が最も多い。</p> <p>「1 生徒指導は全職員で行うという共通理解と指導体制が確立されている」 Dが存在する。</p> <p>「9 生徒会組織を活性化させ、生徒たちが自主的・主体的に、生活や行事にとりくめるように指導・助言を行っている」</p> <p>「12 読書の勧めと有効な図書整備・活用がなされており、掲示板や図書館だよりを通じてさまざまな情報収集がおこなわれている」 この2項目は他の項目と比較してAが多く、9においてはC＋Dが0である。</p>
<p>2 改善策及び今後の在り方・方向性等</p> <p>生徒指導の意義や重要性を理解して日々指導がなされていることがわかる結果となった。その中で、特に1項目の生徒指導の共通理解や指導体制確立についてはA＋B＝100%でありたい部分である。6の職員研修と併せて、全職員が自信を持って生徒指導に当たることのできる共通理解の仕方やはっきりとした指導体制を構築していく必要がある。年度初めにある共通理解の場を、生徒指導部の方針への理解が高まるよう設定していきたい。</p> <p>生徒の自主・主体的活動への指導助言や読書指導は高い評価であり、生徒が表現したり活躍したりする場がしっかり確保されているといえる。一方で部活動指導は工夫が必要である。生徒の自己評価を見ると「部活動や生徒会活動に積極的に参加し他の人たちと協力しながら自らを向上させようと努めている。」がどの学年も△であることから、部活動などの積極的参加は重要課題である。文武両道は自己実現、自己尊重につながる。部活動と学業の両立をサポートしていくために、職員同士がコミュニケーションをとり、多方面から生徒に働きかけていくことが大切である。</p>